

稲作情報

Vol.3 平成27年6月4日

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部

問い合わせ先：本吉農業改良普及センター

TEL：0226-29-6044 ホームページ：http://www.pref.miyagi.jp/my-nokai/



田植盛期は平年より1日早い5月16日、生育は順調に経過

気象経過 4月中旬以降 高温・多照・少雨傾向で推移

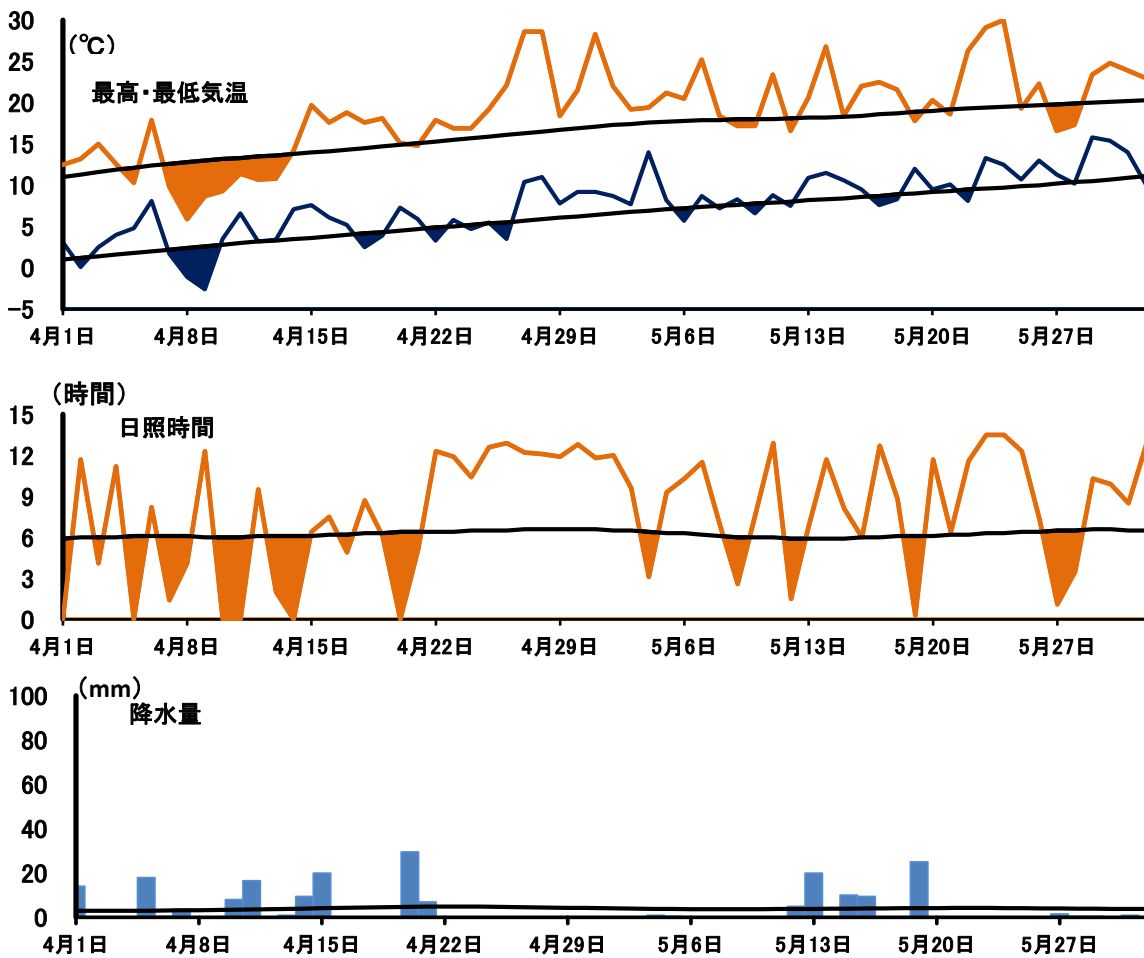


図1 気象経過図（気仙沼アメダス：4月1日～6月1日）

5月は全般的に平均気温は平年よりも高く、日照時間もかなり多く推移しました。一方、降水量は、5月3～4半旬にまとまった降雨があった以外はほとんどありませんでした。

表1 半旬別気象表(気仙沼アメダス)

	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			日照時間(hr)			降水量(mm)		
	H27	平年	差	H27	平年	差	H27	平年	差	H27	平年	比	H27	平年	比
5月1半旬	15.2	11.9	3.3	22.0	17.4	4.6	9.6	6.8	2.8	45.8	32.3	142%	1.5	19.6	8%
5月2半旬	13.4	12.5	0.9	19.7	17.9	1.8	7.3	7.5	-0.2	39.0	30.6	127%	0.0	18.5	0%
5月3半旬	15.5	12.9	2.6	21.2	18.2	3.0	9.9	8.2	1.7	41.0	29.6	139%	35.0	19.2	182%
5月4半旬	15.1	13.5	1.6	20.8	18.7	2.1	9.4	8.9	0.5	39.5	30.3	130%	34.5	20.3	170%
5月5半旬	18.2	14.2	4.0	24.7	19.4	5.3	10.9	9.6	1.3	57.3	31.4	182%	0.0	20.8	0%
5月6半旬	17.0	14.9	2.1	21.4	20.0	1.4	13.3	10.5	2.8	40.6	39.1	104%	3.5	23.4	15%

播種・田植の状況 播種盛期は平年より1日遅く、田植盛期は平年並

管内の播種盛期は4月15日で平年より1日早くなりました。苗の生育は概ね順調でしたが、緑化期前後の高温（育苗ハウス内の高温）等により、田植え直前に坪枯れ状となる苗立枯細菌病やもみ枯細菌病の発生が所々でみられました。

また、田植盛期は、苗が徒長傾向となり田植えが前倒しになった事例もみられ、平年より1日早い5月16日となりました。

表2 は種および田植え状況

	は種状況			田植え状況		
	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
平成27年	4月6日	4月15日	4月21日	5月9日	5月16日	5月24日
前年	4月12日	4月16日	4月20日	5月11日	5月17日	5月26日
平年	4月8日	4月16日	4月22日	5月11日	5月17日	5月25日
前年差(日)	-6	-1	1	-2	-1	-2
平年差(日)	-2	-1	-1	-2	-1	-1

田植後の生育経過 生育は順調、平年より7~10日ほど進んでいる

6月1日現在の水稻生育調査ほの生育は、両ほ場とも葉数は平年を1枚以上進んでおり、平年より7~10日ほど進んでいます。南三陸町ササニシキでは、草丈は平年より長く、莖数も平年比134%と多くなっています。

管内全体も、田植え後の好天により生育は順調で、平年より進んでいます。

表3 生育調査結果

調査地点名 品種名		苗調査		田植調査			6月1日調査		
		草丈 (cm)	葉数 (枚)	田植月日	植付本数 (本/株)	栽植密度 (株/㎡)	草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)	葉数 (枚)
気仙沼市	平成27年	13.4	3.6	5月14日	3.7	18.5	21.7	115	5.8
	前年	13.3	2.5	5月13日	5.8	22.2	19.2	146.5	4.7
	平年	13.4	2.9	5月13日	5.2	21.2	18.3	119	4.4
ひとめぼれ	前年差(比)	0.1	1.1	1日	-2.1	-3.7	2.5	78%	1.1
	平年差(比)	0	0.7	1日	-1.5	-2.7	3.4	96%	1.4
南三陸町	平成27年	15.0	3.4	5月14日	5.9	19.6	25.0	135.2	5.5
	前年	15.3	4	5月16日	4.6	18.5	20.8	90.7	4.4
	平年	-	3.3	5月16日	5.2	18.5	18.4	101	4.4
ササニシキ	前年差(比)	-0.3	-0.6	-2日	1.3	1.1	4.2	149%	1.1
	平年差(比)	-	0.1	-2日	0.7	1.1	6.6	134%	1.1

注：平年値は過去5カ年(平22~26年)の平均値

今後の技術対策

◎水管理

- 水深は浅水(2~3cm)として水温の上昇に努め、分げつの発生を促進させましょう。
- 低温や強風が予想される場合は、5~6cmの深水にしましょう。
- 水かけは早朝に行い、日中は止水してください。日中に水かけを行うと、水田全体の水温が高まりにくく、水口と水尻の水温差が大きくなり、生育ムラが生じやすくなります。

◎病害虫防除

《本田初期害虫》

- 病害虫防除所の発生予察情報(5月22日発行)によると、イネミスゾウムシとイネドロオイムシの発生量は、平年よりやや多い見込みです。
- 箱施用剤を使用した場合は、本田での防除は必要ありませんが、箱施用剤を使用しなかった場合は、以下の要防除密度を目安に防除してください。
 - ・イネミスゾウムシ：畦畔から約2mで成虫が130頭以上/100株見られるとき

- ・イネドロオイムシ：侵入盛期（6月始め）に、成虫が 25 頭以上/100 株、または卵塊が 80 個以上/100 株見られるとき

《葉いもち》

- 早期の葉いもち発生は、感染苗の本田持ち込みによるものが多く、そこから菌が空気中に飛散して伝染します。ほ場に放置している残苗は、本田でのいもち病の発生源となりますので、補植が終わったらただちに土に埋めるなどして処分してください。残苗を処分する際は、苗にいもち病が発病していないかを確認し、発病があった場合は本田での発生に注意してください。
- 箱施用剤によるいもち病防除を行っていない場合は、オリゼメート粒剤またはオリゼメートパック等の水面施用剤を6月中・下旬に湛水状態で散布してください。

◎雑草防除

- 初期剤や初中期一発剤を散布しても雑草が残っている場合は、中・後期剤を散布し防除しましょう。
- 中・後期剤を散布する場合は、必ず雑草の種類や草丈・葉齢を確認し、適切な薬剤を選びましょう。農薬ラベルに記載された使用時期および使用方法に注意し、遅れないように散布してください。

～難防除雑草コウキヤガラについて～

本吉管内では、耐塩性が高く塊茎による繁殖能力が高い難防除雑草コウキヤガラが震災前から多発していましたが、震災の津波被害を受けた地域では、復旧までの休耕期間にコウキヤガラが増殖し、復旧後の水稲作に影響を及ぼしています。

コウキヤガラ対策について、古川農業試験場から新たな知見が得られたので、その一部を紹介します。

<本田での発生>

- 有効成分にピラクロニルやピリミスルファン、メタゾスルフロンを含む水稲用除草剤はコウキヤガラに高い効果を示します。
中後期剤での例：アトトリ 1 和粒剤 など

<休耕田での発生>

- コウキヤガラが繁茂した休耕田では、6月下旬までにグリホサートカリウム塩を有効成分とする休耕田用除草剤を茎葉散布することで、当年の塊茎は生産されるものの、翌年の萌芽は抑制されます。
- コウキヤガラが繁茂した被災休耕田において、作土を移動したりプラウにより反転耕することで、作土表層の塊茎数が減少します。



コウキヤガラ発生水田(6月)



コウキヤガラの地下茎

補植用残苗は早めに処分しましょう！